

ー臨床研究に関する情報および臨床研究に対するご協力のお願ー

現在、東京女子医科大学東医療センター外科では、本学で保管している診療後の診療情報等を使って、下記の研究課題を実施しています。

この研究課題で利用する診療情報等の利用については、研究対象者の方の同意が得られていませんが、本学倫理委員会によって「社会的に重要性が高い研究である」等の特段の理由が認められ、実施についての承認が得られています。この研究課題の詳細についてお知りになりたい方は、下欄の研究内容の問い合わせ担当者まで直接お問い合わせください。なお、この研究課題の研究対象者に該当すると思われる方の中で、ご自身の診療情報等を「この研究課題に対しては利用・提供して欲しくない」と思われた場合にも、下欄の研究内容の問い合わせ担当者までお申し出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

[研究課題名] 胃癌手術患者における術後経過に影響を与える因子についての検討

[研究対象者] 2009年1月より2018年8月までに胃癌に対して東京女子医科大学東医療センター外科で胃切除術を受けられた方

[利用している診療情報等の項目] 性別、生年月日、年齢、診断名、術後経過（手術時間、手術時の出血量、手術後退院までの期間、術後合併症の有無と内容）、病理組織学的所見（最大腫瘍径、癌の占拠部位、切除断端病理組織学的所見、リンパ節郭清の個数、癌の深達度、リンパ節転移の有無、癌の進行度分類）

栄養状態（手術前と術後1年経過時；体重、内臓脂肪面積、皮下脂肪面積、骨格筋面積、血清アルブミン値、CRP値、総コレステロール値、総リンパ球数）

予後（3年全生存率、5年全生存率、無病生存率、無増悪生存率） 等

[利用の目的] 近年、内臓脂肪量、皮下脂肪量、骨格筋量や、CRP値*が胃癌の術後経過に関わる指標として注目されています。しかしまだ報告は少ないため検討する必要があります。

本研究では、胃癌手術の術後の経過に、内臓脂肪量、皮下脂肪量、骨格筋量、CRP値が関与する因子であるかについて明らかにすることを目的としています。

※CRP（C反応性蛋白）とは体の組織の一部が壊れたときや、炎症や免疫反応が起こったときに血液中に増えるタンパク質です。

（遺伝子解析研究：無）（営利企業との共同：無）

[利用期間] 倫理委員会承認後より2024年12月までの間（予定）

[この研究での診療情報等の取扱い]

本学倫理委員会の承認を受けた研究計画書に従い、お預かりした診療情報等には匿名化処理を行い、ご協力者の方の氏名や住所などが特定できないよう安全管理措置を講じたうえで取り扱っています。

[研究責任者、および、研究内容の問い合わせ担当者]

研究責任者：東京女子医科大学 東京女子医科大学東医療センター外科 教授 塩澤俊一

研究内容の問い合わせ担当者：東京女子医科大学 東医療センター外科 西口遼平

電話：03-3810-1111（内線）4155（応対可能時間：平日9時～16時）